

令和2年度学校評価自己評価表（評価計画）

A：100%以上 B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満

廿日市市立佐方小学校

評価計画				自己評価					学校関係者							
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための 具体的方策	評価項目・指標	目標値	分掌	中間	最終	達成度 (2月)	評価	結果と課題の分析	評価コメント	改善方策				
						10月	2月									
【確かな学力・学び続ける力】 学ぶ喜びにあふれた分かる授業を創造する。	◎学習意欲の向上を図り、基礎・基本の確実な定着を図る。	「ユニバーサルデザインを生かした授業づくり」の校内研修を実施する。	・全国学力・学習状況調査で、60%以上正答した児童の割合	85%以上	教務	/	/	91.5%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業で自分の考えをもつことや考えたことを表現することを積み重ねてきたことで、国語科の「条件に合わせて文章を書く」などの「書くこと」の領域、算数科の「理由を説明する問題」など記述問題で正答率が上がるなど成果が見られた。しかし、低学力の児童への基礎学力を定着させることには課題が残った。廿日市学力状況調査で通過率60%以上の児童は、国語科80.6%、算数科75.0%であった。 ・国語・算数科において、期末テストの「思考力・判断力・表現力」の観点の問題を90%以上正答した児童の割合は、83.5%であった。国語科では、目標を大きく上回ったが、算数科において、目標を少し下回った。問題文の意味を正しく把握することや、自分の考えを論理的に文章に表現することはまだ課題が見られた。 ・低学年から、教科等の用語等を説明の中で活用させながら発言することを意識させることで、適切な語句を用いて表現できるようになってきた。 ・高学年では「つなぎ発言」に取り組み、人の意見を聞き、その内容と比べたり、付け加えたりしながら自分の意見を伝えさせた。その結果、友達のことをじっくりと聞いたり、比べて考えたりする力が付いてきた。 ・外国語の学習では、友達の良いところを取り入れながら、自分の伝えたいことを明確にして発表することを通して、自信をもって表現できる児童が増えた。 ・授業の中で、ユニバーサルデザインの視点である共有の場を工夫し、意識的に取り入れていると答えた教職員の割合は、88%だった。ペアやグループ活動を意図的に取り入れ、各教科の用語やキーワードなどを使うことを意識して説明する活動を行うことで協働的な活動が活発になった。全学年で校内授業研究を実施し、「ユニバーサルデザインを生かした授業づくり」の視点ははっきりさせた授業をつくっていく中で、教職員の共通理解が図られてきたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止の視点も踏まえ、授業の中で共有の場を工夫し取り入れるため校内研修を行い実践をしてほしい。 ・新型コロナウイルス感染防止の視点もふまえて、授業の中で共有の場を取り入れるための工夫を校内研修を通じて、全学級の担任や担当者が学び、実践に活かしてほしい。 ・昨年度評価からになった項目の目標値を引き上げたので、「学力の状況調査」「共有の場」の項目が弱まっているのは、学校評価の目指す方向だと考える。 ・前年度と比較可能な評価項目・指標の場合は、「前年度評価」の欄を設けたら、より明確な評価が可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考えなくなる、実際の場面を想起できるような課題を設定することを今後も大切にしたい。また、学習の見直しをもたせ、児童と一緒に学習の流れを共有しながら進める。 ・日々の授業の中で、児童の実態に合わせて、思考・表現する場を工夫する。①自分の考えをもつ、②話話を活用する、友達の考えを繰り返すなど言い方を身に付ける、③聞き手を意識して分かりやすく、説得力のある説明をする、④相手の意見につなげて自分の意見を言うなど工夫して取り組む。 ・各教科で説明するために必要な用語やキーワードを明確にして、正しい用語を使って説明したり、説明を文章で書いてみる活動を意図的に仕組む。 ・目的を明確にしたペアやグループ活動を意図的に取り入れる。 ・パワーアップタイムなどを活用して、基礎的な学力を定着させる。 ・前年度と比較可能な評価項目・指標の場合は、前年度との経年変化を見ることができるよう自己評価表を工夫する。 				
			・国語科、算数科において、期末テストの「思考、判断、表現」の観点の問題を80%以上正答した児童の割合	80%以上									81.9%	83.5%	104.3%	A
			・授業の中でユニバーサルデザインの視点である共有の場を工夫し、意識的に取り入れていると答えた教職員の割合【重点項目】	90%以上									87.5%	88.0%	97.7%	B
【ルールを守り豊かな心】 自分を大切にし他者を大切に、集団の中で力を発揮させる。	◎開発的生徒指導により「出番」「チャレンジ」「承認」する場を児童に与え、児童の自己有用感を高める。	基本的な生活習慣（挨拶）に取り組む。	・「挨拶しよう」教職員・保護者アンケートで「児童は進んで挨拶をしています」という項目で肯定的評価をした割合	70%	生徒指導	/	/	88.6%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶」については、児童の評価が96.2%と高いが、保護者・教職員との評価の開きが大きい。委員会を中心によりよい挨拶について考える集会を行い、高学年が中心によりよい挨拶をしていこうとする姿が見られた。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、挨拶運動を自粛したため、各教室入り口での挨拶を指導した。 ・2学期から縦割り班掃除に取り組んだ。縦割り班会議を計画的に実施することで、高学年のリーダーを中心に、一人一人の役割が明確になり「もくもくそうじ」に取り組んでいる児童が増えた。また、役割分担を明確に示したり手順を示したりして、清掃活動への指導の工夫を行った。 ・自己有用感、ここ数年間で徐々に評価が上がり、目標値を達成することができている。新型コロナウイルス感染症予防のため、様々な行事や学級での取組も自粛になっているが、日々の活動の中で様子を捉え、学級でしっかり形成的評価・肯定的評価を意図的にしていることが成果につながったと考えられる。担任や担当のみならず、クラスメートや保護者からも肯定的な評価をもらったことで児童の自己有用感につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係を作る第一歩、相手の状況を知る、反応を推し量る等を考えて挨拶をすることが大切である。「相手に聞こえる声で」「明るく元気に笑顔を添えて」「相手の顔を見て」「相手の立場、状況に合わせて」などを行うことが大切である。また、保護者や教職員と児童が思い描いている挨拶には差があるのではないかと考える。 ・交通立哨をしている地域の方へ立ち止まって礼儀正しく挨拶をしている児童がいる。挨拶は、家庭での教育も関係がある。保護者も教職員もしっかりと児童に進んで挨拶をして、より良い見本となることが必要である。 ・縦割り班掃除は、素晴らしい取り組みで、佐方の目玉にしていたきたい。 					
			・「時間いっぱい丁寧に掃除をしている」と回答した児童の割合	80%								98.0%	97.5%	121.3%	A	
			・児童が主体的に清掃活動を取り組むことができるように指導を行っている教職員の割合	100%								100.0%	100.0%	100.0%	A	
【地域への信頼と貢献】 情報を発信し学校の教育方針を理解してもらい、地域の教育力を学校に生かす。	自ら進んで地域行事等に参加し、地域に親しみを感じる児童を増やす。	地域素材を生かした学習を各学年で実施し、地域に愛着をもつ児童を育成する。	・各教科・領域等で、佐方の地域に愛着がもてるように単元を構成して授業を実践した学年の割合	100%	生徒指導	/	/	100.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、全学年が各教科・領域等で、佐方の地域に愛着がもてるように単元を構成して授業を実践した。今年度は、新型コロナウイルス対策として、直接ゲストティーチャーを招いての授業形態は難しかったが、地域の方へ教員がインタビューに行ったり、ビデオで話を聞いたりするなどの工夫を行うことで、児童の学習への意欲の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域から見ても大変ありがたい目標である。コロナ禍では仕方ないが、アフターコロナには、もっとも児童が佐方で育って良かったと思ってもらえるように頑張りたい。 ・佐方小学校区は多くの町名で構成されている。「佐方の地域」という表現は、佐方小学校区全体から見た地域として適切か。 					
			・行事や日々の生活において互いの良さを見付け合える場を設ける。	80%								84.6%	87.6%	109.5%	A	
			・「友達は、私のことを分かってくれている」で肯定的評価を答えた第3学年以上の児童の割合（アセス）	80%								84.6%	87.6%	109.5%	A	
【体力の向上・健康な体】 すべてのエネルギーの源である健康を保持し体力を向上させる。	日常的に運動を奨励し、基本的な生活習慣の確立を図る。	家庭での規則正しい生活の送り方についての意識の向上に取り組む。	・就寝時刻を守る児童の割合。学期ごとにアウトメディア、睡眠の調査を行い、生活リズムチェック週間の期間中、4日/5日、目標達成できた児童の割合	85%以上	健康教育	/	/	91.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就寝時刻の達成率は、1学期が73%、2学期が74%、3学期が77%でC評価からB評価に好転した。朝食摂取の達成率は1・2学期が91%、3学期は95%に上がり、A評価をキープできた。学校評価保護者アンケートの意識調査を見ると、アウトメディア週間の取組は基本的生活習慣の定着に役立っていると考えている保護者の割合が中間、最終とも74%で、昨年度の61%よりも好転し、一定の評価はしていた。アウトメディアの達成率は1学期が76%、2学期が77%、3学期が81%と、こちらも上昇が見られた。 ・通信で生活リズム定着週間の結果を報告したり、睡眠や朝食の効果についても情報提供していた。更に2学期の学級懇談会で、一日のタイムスケジュールを見直したり、家庭でのルールづくりを徹底してもらおうと、全ての学級で生活リズムの定着について協議事項にあげた。基本的生活習慣の定着は全ての土台となるため、今後とも保護者や児童の更なる意識向上を図る必要がある。 ・児童に大休憩や昼休憩などによりしっかりと体を動かしているかのアンケートをした結果、2学期が62%、3学期は75%に上昇した。10月以降、学級外遊びの日を月2回設けたり、なわとび台を設置して、外遊びのきっかけ作りをした。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、体力向上を図るために必要な体を動かす機会が例年に比べて減ってしまった。しかし、外遊びのきっかけ作りを実践していくことで、確実に成果は見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごと、長期休業後に生活リズム定着週間を設ける。結果は健康教育部だよりで各家庭に知らせる。生活の見直しを働きかける。 ・学級懇談会のテーマとして「基本的生活習慣の定着」を取り上げ、保護者の理解、協力が得られるよう内容を工夫する。 ・保健指導や学級指導で児童の意識向上を図る。また、生活リズムが崩れている児童へは、SSW等と連携しながら、個人、保護者へ直接アプローチする。 ・今後も毎月2回外遊びをする日を設定したり、令和2年度中止していたロング昼休憩の日を復活させて、外遊びの機会を増やして、児童の運動に対する意欲・関心を高める。また、体育委員会による委員会活動などを通して、様々な運動をする機会を設けたり、体力アップ体操を実施し、課題となる運動能力を向上させる取組を行う。授業においても、運動量が確保された授業作りを目指し、夏休み等を利用し研修を行う。 					
			・毎日、朝食を食べて登校する児童の割合。食に関するアンケート結果や生活リズムチェック週間の5日/5日、目標達成できた児童の割合	85%以上								91.0%	95.3%	112.1%	A	
			・1日1回、外遊びができた児童の割合。「昼休憩などにしっかりと外で遊んでいますか」という項目で肯定的評価をした児童の割合	70%以上								62.0%	74.8%	106.9%	A	
【働き方改革】 子どもと向き合う時間を確保し、教育の質の向上を図り、教職員一人ひとりが健康で、生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。	◎学校における自律的な業務改善・業務削減の推進を図る。	校務分掌の見直しを図る。定時退校日の設定を行い、教師のワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	・子どもと向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合	80%以上	教務 生徒指導 健康教育	/	/	110.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等を精選したり、見直しをもって行事を調整したりする中で放課後の時間確保に努めた。また、デジタル教科書や電子黒板を効果的に活用することにより、教材準備等の時間削減やG-Suiteによる校内研修や暮会を行うことで効率よく業務に当たることができた。このことにより、肯定的に回答した教職員の割合が、中間報告より8.8%上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書や電子黒板などのICT機器の活用は、児童にとって非常に視覚的で分かりやすいものだと思う。そして、教職員の教材準備の時間の軽減にもつながっていることが分かった。今後もICT機器を効果的に活用しながら業務改善を継続してほしい。 ・「子どもと向き合う時間の確保」が88%という数値に安堵した。ICT機器がいくらか進化しても教育は人対人が核だと思う。先生方の努力に感謝している。 					
			・時間外勤務時間が月平均80時間未満の教職員の割合	100%								97.5%	96.3%	96.3%	B	
			・時間外勤務時間が月平均45時間未満の教職員の割合	60%								43.8%	40.7%	67.8%	D	